

第13回

「議論の十字路、百万遍」

百万遍談議

かつて百万遍周辺の喫茶店では、「読書会」と称して、違う分野の学生が集まってひとつのテーマで議論をする姿がしばしば見られました。コーヒー1杯で数時間いても店の人は気にもせず、ひたすらコップにお水をついでくれたものです。
あるいは「下宿」に集まってなされた議論は、同じ下宿の他学部の人だけでなく、他大学の学生も加わって、それこそ朝まで延々と続けられたというのが茶飯事でした。

最近はコロナの影響もあり、学生同士の議論というものが影をひそめているように思います。加えてそもそも喫茶店自体がどんどん少なくなっているようです。
そこで、往時に盛んであったそんな議論の場を「百万遍談議」として復活させようという思いから、このような企画が作られました。参加資格は、京都大学の学部学生であれば学部や学年は問いません。

授業ではありませんので、なにかこうしなければいけないという義務はなく、単に興味があるから参加して、人の話をきき、自分の考えを述べる。それだけです。
毎回のテーマに関して、あらかじめ知識が必要となるわけではありません。唯一お願いするのは、毎回提示される「書物」あるいは「短文」を読んでくること、それだけです。

「人はこんなことを考えているんだ」ということを知るだけでも楽しいですし、さらには、自分の考えを人にきいてもらうことの楽しさも、大学生に与えられたある種の特権です。
気軽な気持ちで参加してください。

いろいろな人と人、人と言葉あるいは考えの出会いが生まれることを楽しみにしています。

話題提供者 宇佐美 文理 (文学研究科 教授)

テーマ 占いと確率

テキスト 「サイコロの幸せ」

今回は上記のテーマについて、ともに考えてみたいと思います。
テキストは下記QRコードの申込フォームに記載のリンクからダウンロードして読んでください。

主催：京都大学 学術研究展開センター (KURA)
場所：附属図書館3階共同研究室5
対象：京都大学学部学生（正規生）先着10名
使用言語：日本語 | 費用：無料
申込方法：下記QRコードよりお申し込みください
<https://forms.gle/LDtXQwXSmyZA9SQe8>



【お問い合わせ】
京都大学 学術研究展開センター(KURA)



「百万遍談議」担当
jinsha@kura.kyoto-u.ac.jp

★これまでの開催記録はこちら
<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/support/gakusai/dangi/>



京都大学



2024.1.20 [SAT.]

15:30—17:00

2024年1月20日
百万遍談議 開催報告

第13回 占いと確率

話題提供者

宇佐美 文理 文学研究科 教授

参加者：5名

[内訳]

1回生2名（農学）

2回生1名（文学）

3回生1名（総合人間学）

4回生1名（法学）

談議メモ

サイコロの出目を占う催しをめぐる物語（使用テキスト）において、作中の登場人物の一人が「人間の意志が絡まないものに占いは不要、いや不可能なんではないか」と問う場面への応答から話が始まりました。

それに対し、参加者からは「サイコロを振って狙った目を出そうとすること自体、人間の意志が介在しているのではないか」「かつては雨乞いで鹿の骨などを焼き、自然界の現象を対象にした占いも存在しただろうが、神の意志への介入を目論むその占辞においてはやはり人間の解釈が働いていたのでは」といった指摘が相次ぎ、占いそのものが人を媒介としたものである以上、対象が何であれ、その行為においては人間の意志が介在しないものは存在し得ないとの趣旨で議論が進んでいきました。

そこで注目を集めたのが、使用テキストのタイトルにもなっていた「サイコロの幸せ」です。ここでのサイコロの役目には（1）意志／恣意性を排除した偶然性に基づくデバイスとしての存在と、（2）人間の期待した目を出すこと（ミラクルの創出）の2つがあると考えられるものの、「そもそも人間を喜ばせることがサイコロにとっての幸せなのか」「サイコロの価値観は人間と同じなのか」などが積極的に問われ、作中でサイコロが何のからくりもないことを証明するために最後碎かれることに対しては「死＝（人間からの）解放」として解釈が進む場面も。

終盤には、サイコロの幸せからもう一步議論を深めて、サイコロと人間の間における合意——サイコロはそれが成形される以前の素材であった段階からサイコロにさせられることに合意していたのか——へと話題が移り、そこからさらに人工中絶の話を軸とした生命倫理、親ガチャ論へと飛び火しつつ、終始盛り上がりを見せた回となりました。

今回印象深かったのは、参加者のみなさんが占いの本質を「予測＋助言（期待）」であると捉え、変えられない過去に対して「将来は変えられる」と信じて生きていくためにこそ占いは必要である、と話されていた点です。どれだけ科学技術が発達しても、時代を超えて占いが存在し続ける理由がそこにあるのだと気づかされました。